

【権威者: Authority】

権威とは、簡単にいえば、他者を強制的に服従させることと考えられます。また、それは知識、経験、地位によって得られ、それを得た者は、他者よりも自分が偉い者のように考えるのでは、と思います。

では、聖書にはどう書かれているのでしょうか。旧約聖書では、ダビデが神から王として選ばれた記事があります。神はサムエルに「ベツレヘム人エッサイの息子たちの中に、わたしのために王を見出した。」と言われました。そこで、サムエルはエッサイのところに行き、彼の息子たちに会いました。どの息子が王になるのか。サムエルにはわかりません。彼は容姿を見て判断しようとしたが、神は言われました。「人はうわべを見るが、主は心を見る。」その言葉は、神ご自身が人を見る時、人のようには見ないことを意味します。人は心を隠して人の前に出ることができます。しかし、神は、その心を見られます。人の心は神の前では、何もかも明らかになっているのです。神はすべてのことをご存じです。それで誰が権威を持つにふさわしいかも知っておられます。

新約聖書ではどうでしょうか。ローマ 13 章 1～3 節『1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。2 したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従うのです。従う者は自分の身にさばきを招きます。3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐ろしいと思いたくなければ、善を行いなさい。そうすれば、権威から称賛されます。』【1 Let every soul be subject to the governing authorities. For there is no authority except from God, and the authorities that exist are appointed by God. 2 Therefore whoever resists the authority resists the ordinance of God, and those who resist will bring judgment on themselves. 3 For rulers are not a terror to good works, but to evil. Do you want to be unafraid of the authority? Do what is good, and you will have praise from the same.】神はすべての物を創造された方です。何の目的で創造されたのでしょうか。創造の目的が書かれてあるところがあります。コロサイ 1 章 15～16 節『15 御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。16 なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。』【15 He is the image of the invisible God, the firstborn over all creation. 16 For by Him all things were created that are in heaven and that are on earth, visible and invisible, whether thrones or dominions or principalities or powers. All things were created through Him and for Him.】支配であれ権威であれ、御子(イエス・キリスト)によって創造されました。もし、人が権威を持っているとしたら、それは神からのものです。多くの人がその権威を与えられましたが、その中でどのくらいの人が、その権威を持つにふさわしい人がいたのでしょうか。歴史を見る限り、あたかも自分でそれを得たかのように振舞い、そして自分勝手に、情欲・敵意・争い・党派心・分裂・分派が起こっている中で、自分の心の赴くままに権威を用いている人がいます。その権威によって、人を死に追いやっても、自分では責任をとらず、また、あたかも自分が正しいと主張します。

ダビデ王が選ばれる前に、サウルという人物が王に選ばれました。王は国を治め、諸外国からの侵略に対して、戦いをしなければなりません。まず、サウルの人物についてはサムエル記に書かれてあります。

I サムエル 9 章 1～2 節『1 ベニヤミン人で、その名をキシシュという人がいた。キシシュはアビエルの子で、アビエルはツェロルの子、ツェロルはベコラテの子、ベコラテはベニヤミン人アフィアハの子であった。彼は有力者であった。2 キシュには一人の息子がいて、その名をサウルといった。彼は美しい若者で、イスラエル人の中で彼より美しい者はいなかった。彼は民のだれよりも、肩から上だけ高かった。』【1 There was a man of Benjamin whose name was Kish the son of Abiel, the son of Zeror, the son of Bechorath, the son of Aphiah, a Benjamite, a mighty man of power. 2 And he had a choice and handsome son whose name was Saul. There was not a more handsome person than he among the children of Israel. From his shoulders upward he was taller than any of the people.】神はサウルを選んで王としました。彼の容貌は美しかったようです。しかし、彼は神の命令を守らず、民から気に入られるようにしました。その心は、神から離れていました。神は人に権威を与えられます。そして、その権威を正しく使うかどうかは、その人にかかっています。後に、神はその人を評価されます。